

(4)過去の集中豪雨の事例

①平成元年8月1日（集中豪雨）の概要

【気象概要】

九州の南方海上にある台風12号の周辺域における雷雨性の大雨である。1日午前3時現在の速報天気図の気象概況をまとめると以下ようになる。全国的に雲が広がり太平洋側を中心に雨が降っている。特に関東地方では、雷を伴った大雨となっている。

同天気図の気象情報によると、7月31日21時45分、東京地方に雷注意報が発表された後、8月1日01時45分、東京地方大雨・洪水・雷注意報に切替、同日3時00分大雨・洪水警報雷注意報（23区多摩東部）、大雨・洪水・雷注意報（多摩西部）に切替えた。

【降雨概要】

主な観測地点の雨量としては、中野で、総雨量276mm、60分最大雨量70mm（1日03時00分から04時00分）、10分雨量14mm、石神井で、総雨量215mm、60分最大雨量65mm（1日03時40分から04時40分）、10分雨量16mm、善福寺川で、総雨量221mm、60分最大雨量64mm（1日02時50分から03時50分）、10分雨量13mmの雨が降った。

【出水概要】

主要地点における最高水位は、乞田川の車橋で1日02時50分頃A.P.+58.47m（護岸天端より2.44m上がり）^{注3}、目黒川の大崎橋で1日03時20分頃A.P.+6.75m（護岸天端より1.12m上がり）、空堀川上の土橋で同02時00分頃A.P.+66.96m（護岸天端より0.44m上がり）の水位であった。

【被害概要】

一般資産被害としては、中野区で、浸水面積11.30ha、被害家屋棟数905棟（この内、床下257棟、床上648棟）、渋谷区で、浸水面積8.17ha、被害家屋棟数875棟（この内、床下735棟、床上140棟）、全城では浸水面積81.60ha、被害家屋棟数4684棟（この内、床下2755棟、床上1929棟）の被害があった。

公共土木施設被害は3ヶ所、公益事業被害は6ヶ所であった。

次頁に等雨量線図（総雨量）を示す。

^{注3}ArakawaPeilの略で、東京湾霊岸島量水標零位を基準とする基準水面である。T.P.（東京湾平均海面）±0m=A.P.1.1344mである。

等雨量線図（総雨量）

平成元年8月1日

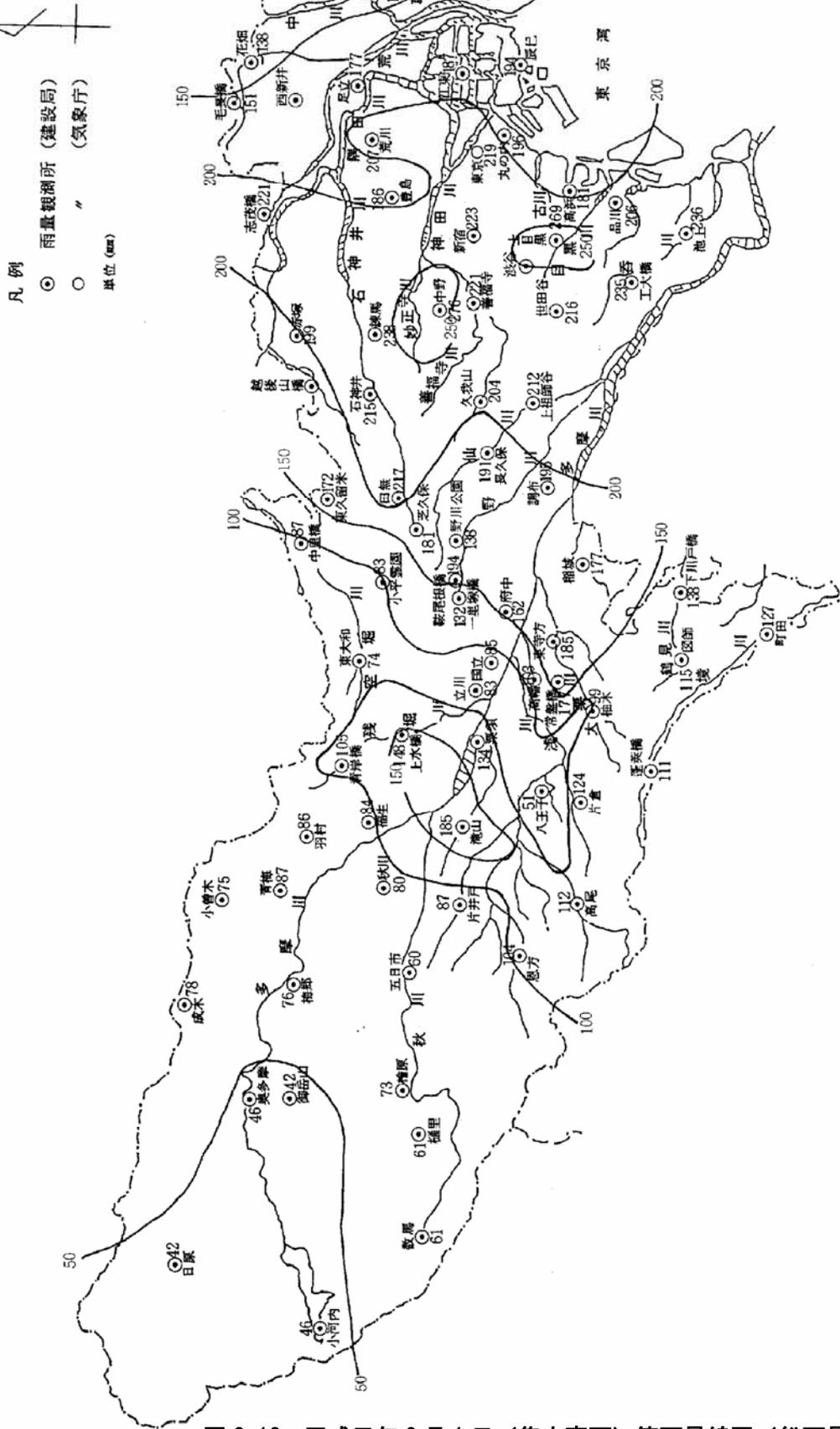


図2-13 平成元年8月1日（集中豪雨）等雨量線図（総雨量）

（出典：東京都建設局河川部）

②平成11年7月21日（集中豪雨）の概要

【気象概要】

20日から21日に前線が日本海から関東や東北南部にかけて停滞し、また、弱い熱帯低気圧が九州の南海上を北上した。東北地方南部から南に降雨をもたらした。

東京地方では21日15時30分に雷注意報から大雨洪水雷注意報に更新され、同15時55分に23区と多摩東部に大雨洪水警報が発令された。大雨洪水警報は、21日20時20分に解除された。

【降雨概要】

21日に、区部を中心に総雨量20～150mm前後の雨が降った。60分最大雨量は、練馬で131mm、最大総雨量は、練馬で151mmを記録した。

【人的被害】

新宿区では、地下倉庫が浸水して閉じこめられた1名が死亡した。

次頁図2-14に等雨量線図（総雨量）を示す。

